

## 活動報告

## 研究・活動報告

吉田 清司 (法学部教授)

## 1. 著作

(1) 「私の考えるコーチング論」(日本コーチング学会編・別冊コーチング研究第1号pp.127-135)

スポーツ活動に関わる目的は多様である。その関わり方を、①「する」、②「観る」、③「支える」、3つに分類し、コーチングにはなぜ哲学が必要か、コーチに必要な資質と能力、コーチングに向き合う覚悟、多様な選手へのコーチングにおける実践的思考、コーチング学の一般化について論じた。(2016年4月1日発行)

(2) 「考えて強くなるバレーボールのトレーニング スカウティング理論に基づくスキル&ドリル」(大修館書店)

本書は、前半部分でバレーボールにおける情報分析の具体的な方法や、中高校の部活動においても利用できるよう紹介し、後半部分では情報分析から得たデータを日々の練習に反映させる方法や、具体的な練習メニューを、渡辺啓太氏と共同執筆した。(2016年7月1日発行)

(3) 「集団からチームへ、昇華のキーポイント」(公益財団法人日本体育協会発行・Sports Japan Vol.27. pp.14-16)

単なる人の集まり「集団」から、スポーツにおける結束力に満ちた「チーム」へと変化を遂げるには、どのような要素や枠組みが必要か。チーム愛醸成、リーダーシップ、異端児との接し方、バイプレイヤー(および控え選手など)への対応など、いろいろなキーポイントを解説した。(2016年9月10日発行)

(4) 「コーチングバレーボール 基礎編」(大修館書店)

本書は、日本バレーボール協会が指導者養成講習会で使用するテキストを11年振りに全面改訂したものである。内容は、指導者に必要な指導技術や基礎理論について、その背景にあるエビデンスを踏まえて解説している。最新の指導理論、トレーニング科学、救急法といった内容を網羅した、指導者必携のテキストである。

筆者は、「第5章 バレーボールに必要な基本技術とその練習法」の「1. サーブ技術」の執筆と、第5章全体の編集、「第7章 基本的なゲーム分析方法」の「1-2. データ収集・分析の方法について」の執筆と、第7章全体の編集を担当した。(2017年2月10日発行)

## 2. 学会活動

(1) 日本バレーボール学会2016年バレーボールミーティング

2016年8月6日、京都外国語大学で開催された2016年バレーボールミーティングにおい

て、ミーティング実行副委員長を務め、ミーティング開催を運営した。また、「事例報告：国際交流とバレーボール」と、「大学におけるバレーボール活動を通じた国際交流」のテーマで開催されたシンポジウムにおいて、司会進行を務めた。

(2) 日本バレーボール学会第22回大会

2017年3月11・12日、国士舘大学世田谷キャンパスで開催されたバレーボール学会第22回大会において、大会実行委員会副委員長を務め、学会大会を企画・運営した。



日本バレーボール学会 2016年バレーボールミーティング